

台風接近に伴う農作物等の技術対策

【花 き】

冠水や浸水の恐れのある場合は、排水溝を整備し排水に努める。マルチの浮き上がり防止のため、土または専用資材を活用し固定する。

1 事前対策

- (1) 切り花は、支柱を補強し、ネットの弛みをなくす。また、畝を横断し支柱をロープ等で連結する。
- (2) 挿し芽床では、苗の飛散を防ぐために、ハウス周辺に防風ネットを設置し、挿し芽床には寒冷紗をべた掛けする。
- (3) 未定植の苗（ポリポット、セル成型苗）は倉庫等の安全な場所に搬入する。
- (4) 定植直後の場合は、寒冷紗や防風ネット等をべた掛けし、株の傷みを防ぐ。
- (5) 切り花の株は、数株をまとめて、紐で結束し固定する。
- (6) 露地花木は、枝折れや倒伏防止のため、支柱を立てて固定する。
- (7) 収穫可能なものは、早めの収穫を行う。
- (8) 停電に備え、自家発電機を準備する。電照用電球等はソケットから外す。事後対策に必要な水を準備する。

2 事後対策

- (1) 冠水や浸水した場合は、速やかに排水を促す。
- (2) 株が倒伏した場合は、茎曲りを防ぐため直ちに株を起こす。
- (3) ベンチ等の棚から落下した鉢物は、早めに立て直す。
- (4) 台風通過後は、葉茎に付着した泥を真水で洗い流し、病害対策を行う。
- (5) 停電復旧後は、直ちにタイマー等の調整を行う。
- (6) 台風通過後は、電照を再開する。キクは、2日以内の停電であれば、花芽分化の可能性は低い。
- (7) 支柱や防風ネット、マルチを点検・補修する。
- (8) 株に被覆していた寒冷紗や紐等は、台風通過後、速やかに除去する。
- (9) 苗の定植が大きく遅れる場合は、薄めの液肥等を施用する。
- (10) 施設栽培は、高温による蒸れや葉焼け防止のため、速やかにハウス換気を行う。